

## 四谷の

# 千枚田だより



第 115 号

## 施設整備

(既報)

「ふるさと水と土ふれあい事業」において平成十五年に整備された施設の一部で老朽化がみられた。

その状況を行政と相談。昨年は「四阿」二棟の屋根葺替えが叶った。本年も「水車小屋とぼつとり」の屋根替えをして頂くこととなり二月八日、保存会の出役により作業を行った。



立派に屋根替えされた水車小屋

現在まで老朽化した施設の整備は「ふれあい広場」の遊歩道の階段や屋根の補修工事が完了したが、今後、まだ残る「ぼつとり」と「四阿」、「手すり柵」などの補修整備を行い、訪れる都市近郊の住民に癒し、憩いの場を提供できるよう、行政、保存会の責務で頑張る所存である。



## ビオトープ

気象予報では、今年の二月は暖かいと予報されたが、何のことはない、三月に入ってもちよつとも暖かくならない。例年だと厳寒期には雨は降らない訳だが不思議と宇連ダムも大島ダムも貯水率が90%と高い。これからみると、この冬はチョイチョイ雨が降ったことが判る。

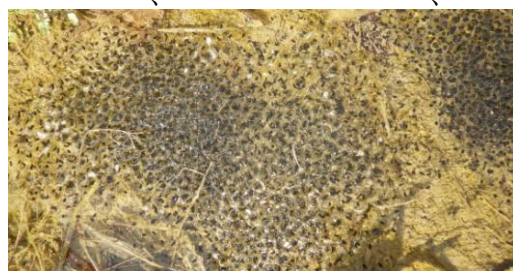


ヤマアカガエルの産卵

連谷地内のヤマアカガエルの産卵場は与良木の溜水と大林の合戸、そして合戸から移植した千枚田の三ヶ所のみである。

ヤマアカガエルは二月の最初の雨の日には必ず産卵する習性があり、今年も二月四日、六日、十五日、十八日に三ヶ所とも産卵を確認した。

八日には寒さで卵塊の表面が凍ってしまったがゼリー状で保護されているから大丈夫。すべての生物、動植物は自然界で生き抜く力を授かっていることに実感、感銘する。



昨年は、収穫後に田んぼ一枚を代掻き、水を張りヤマアカガエルの生態調査を実施した結果、二月六日、十四日、二十六月、三月九日、三月十七日に産卵したが、それ以降に産卵した卵塊は始めに産卵したオタマジャクシにより、ほぼ一日で食べつくされてしまった。その後の産卵個体も全てヤマアカガエルのオタマジャクシにより食べられてしまふ(共食い・個体数の調整)ことが判り、自然の摂理の厳しさをまざまざと見せ付けられた。また、高密度になると共食いなども多々あり、鯉呼吸から肺呼吸、カエルへの変態ができなく、いつまでたっても足も手もでないオタマジャクシのままなので、今年も田んぼに水を張り、過剰な増殖は控えてみた。

## 冬耕の進んだ千枚田

平成九年までは冬耕などは行われていなかったが、四谷の千枚田に魅せられた「河西 忍」が同年十二月三十一日の年取りの日、ヤンマーの耕耘機で黒い煙を噴きながら田起しを行ったのが始まりで、最初は、皆、怪訝な眼差しで見ている。その後、誰彼となく冬耕が始まった。

やはり、田んぼはコメを獲るだけの農地でなく、後の管理(お礼)も肝心であることと、知名度が上がった棚田の保全管理への耕作者の意識高揚の賜物と喜びを覚えている。



## 横浜ゴム新入・幹部社員研修

四月三日(水)、標記研修を千枚田保存会事業の一環として受け入れます。当日、参加できる会員は松下事務局、会長まで連絡ください。(詳細はハガキで連絡します)

### 農事ひとわび

今年は三月に入っても寒い日が続いている。と、言っても寒いながらも春の兆しが見られ始め、また、忙しい田んぼの時期になる。

いらん気をつかわにやあ、かまった事あかないが、昔からの「ことわざ」をちよこつと纏めてみた。

○水苗代の初播きに夫婦喧嘩をせながら種を播くと苗代の溝に初が飛び跳ねるそうぞん。

○糯は下の田んぼに植えると「尻もち」ちゆつて嫌うぞん。

○酉の日に田植えをせると、火事になるちゆう嘶だぞん。(この、伝われはお寺の坊主が自分の田んぼを皆んなに植えさせえと思つた創り嘶だと(舜)は思う)

○初播きの日に、髪の毛を櫛で「とかす」と初が飛び跳ねるちゆうぞん  
○田植えは干支生まれの日に植えるもんじゃあないそうぞん。(お父ずらか、嫁つこだらあか?)

## げなげな嘶

舜二十七十二歳

久しぶりに親友に行き合つた

Q はい、やつとかめだつたのん、まめだつたかん。

A ふん、どうにかこうにか「菓」でもつとるだえん。

Q そいじゃあどつか悪いだかん。

A 肩は痛いし、首も痛いし、足やああがらんし、どこが、どお悪いちゆうこたあないが、体中がガタガタだわえのん。

Q ふんとだのん、わしばつかりだと思つとつとが、あんたもそうかん・・・しばらくあつちこつち、体の悪い所の自慢話に話が弾んだ。

Q とところで、今は、何ようおしとるだん。

A 何につちゆうこたあないが、ちよつと暖くなりやあ お医者様に行つて、帰えつたら炬燵に首まで潜つてのん、黄門様が始まりやあ 見るのが毎日の日課だわえのん。

Q & A まああ お互いに齢だで、たいがいにしとかまいかん・・・と言いつつ別れた。

### 杉花粉

寒い春であつても季節の変わり間は違ひなくやつてくる。

写真は三月八日に我が家から撮つた杉花粉の飛散の状況である。



今年には杉花粉ばかりでなく、中国産の黄砂とPM2.5の飛来に悩まされている。挙句に東京では強風で舞い上がった土ぼこりで視界が悪くなる「煙霧」の発生に悩まされると聞く。住民の多くが「マスク」、「メガネ」、「帽子」と、顔を見せない姿が多く、誰が誰だかさっぱり判らない。悪く言えば皆んな指名手配犯のような環境にある。何とかならないものか、心が痛む。

行 平成二十五年三月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二